

市長所信及び施政方針

令和4年第2回北名古屋市議会定例会の開会に臨み、私の就任に際し、所信と施政方針を明らかにする機会をいただきましたことに対し、まずもって正副議長を始め議員の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

また、これまで市民融和を第一として市民に寄り添いながら、まちづくりを進めてこられた初代市長の長瀬市長を始め、市の礎を築いていただいた多くの関係者の皆様に敬意を表するとともに、合併後16年間で着実に都市としての成長を遂げてきた北名古屋市政の舵取りを任されました重責に、改めて身が引き締まる思いでございます。

今回の選挙では、北名古屋市の現況を憂慮し、新しい北名古屋市をともに作り上げたい、という多くの市民の皆様のお思いが、私自身の主張、政策と共鳴し、多くのご支援につながったものと考えております。

ともに進める、新しい北名古屋へ。これまでのまちづくりを土台にしながら、更なる北名古屋市の発展をめざし、議員の皆様方、市職員、市民の皆様とともに、一丸となってしっかりと市政の運営を行ってまいり所存でございます。

さて、私は、今回の選挙の中で「市民の命と生活を守る」、「子育て・教育の充実」、「安全・安心な環境づくり」、「頼れる福祉」、「まちの活性化」の5つの柱とその基盤となる行財政改革を訴えてまいりましたが、その中でも、市の財政状況については、市民の皆様の大きな関心が集まり、行財政改革を求める多くの声を頂戴しました。

皆様すでにご存じのとおり、現在、北名古屋市の財政状況は、残念ながら良好な状態にあるとは言えません。

これは、本来、合併により進めなければならなかった公共施設の統廃合などの効率化が十分進められない中、合併特例債の積極的な活用などにより、歳入の範囲以上に住民サービスを充実させてきたため、慢性的に財政調整基金の取り崩しを前提とした予算編成を繰り返し、歳出超過の財政構造となり、基金残高が減少し続けてしまうことに問題があると考えております。

そのため、一番最初に着手するのは、このような状況に陥るに至った要因の究明と、現状の打開に向けた行財政改革を、迅速かつ大胆に実行することです。

現在、財政状況の分析を含め、どうすれば市民に住んでよかった、これからも住み続けたいと思っていただけるのか、職員一人ひとりから広く意見の聴取を進めておるところでございます。

また、昨年度まで続けてこられた事務事業見直しの取組を継承しながらも、さらにスピード感をもって議論を深化させ、必要に応じて専門家の知見を取り入れながら、財政調整基金の取り崩しに頼らない強い財政基盤の構築をめざしてまいります。

今後、新しい北名古屋市を築いていく中で、時には市民の皆様への痛みを伴う状況も出てくるかもしれません。

そのために、まずは私の給与の20%カットを定例会で早急に対応していただくようお願いし、改革の範といたします。

そして、公共施設の適正化、借地のあり方の検討を中心とした事務事業見直しと、デジタル技術を活用した各種市民サービスの向上など、新しい北名古屋市に向かって、ひとつひとつ、着実に改革を進めてまいります。

また、そうした行財政改革を成功に導くためには、何よりも議員の皆様始め、多くの市民の皆様の理解を得ていくことが重要であると考えております。

そのため、市民対話集会を定期的を開催するなど、私自身が先頭に立って、しっかりと市民の皆様に施策の内容を説明し、真摯にご意見を伺う「対話」を通じて、市民の皆様とともに、未来に誇れる新しい北名古屋市をつくってまいります。

最後に、私の座右の銘は「世に生を得るは、事を為すにあり」でございます。坂本龍馬による「事を為す」すなわち実行することに重きをおくこの言葉は、困難な課題が山積している状況下において、北名古屋市の長に就いた私にとってはより一層重みのあるものであります。

新しい北名古屋市を創るべく、職員と一丸となって、全身全霊取り組んでまいりますので、議員各位をはじめ、市民の皆さまのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の所信とさせていただきます。